
レブリアと、ぷうたんの物語　～おかし{お菓子(おかしい)}ランダムー学校生活、編～

アストン・ヴォルテクス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レブリアと、ぷうたんの物語　くおかしおかしいお菓子おかしランダムー学校生活、編く

【Nコード】

N6594Y

【作者名】

アストン・ヴォルテクス

【あらすじ】

38歳のごく普通の少年おっさん、ミゲール・レブリア、通称レブリア。彼はボケで女好きで勉強が宿敵だといっているごく普通の少年おっさんである。

そんな彼はある日、とてもとても変な夢を見ました。それは、いろいろな人たちがいる学校で、勉強がだい好き！になるまで、ボケが天才になるまで、女好きが治るまで、ずーっといなければならぬい学校でした。そこは寮もあるので、一応すめます。だが、そんな

のは嫌だ！というレブリアは脱走をしようとしました。と、そのとき、ちょうどミゲールと似たようなことをしている変わった少年、ぷうたんと出会ったレブリアはそのぷうたんと二人で「おかし^{おかしい}お菓子^{おかし}」ランダムー学校完璧超平和脱出計画」をたてました。これは、そんなごく普通の少年^{おっさん}のレブリアと変わった少年のぷうたんと学校の人たちが繰り広げる、ギャグ小説である！世は、脱出時代！！

強引な超有名人学校長・・・の巻き（前書き）

はーい！新しいところで始めたお！

前のやつをコピーしてあるから、まるきつり同じだよ！

強引な超有名入学校長……の巻

「???」「ぐひひ! いいねえ、このおねえさん。めっちゃいいスタイルしているし・・・」

ここは、赤と茶色でできた一軒家。まあ、ギリギリ30人が入ってパンパンになる家だ。そこに、ある少年が住んでいた。

その少年は黄金色の髪でツンツンヘア、赤いバンダナをしていて、狼のようなマークが胸について「Future of world」と書かれている赤いジャンパーを着て、ポケットがたくさんついている青と黄色でできた短パンをはいていた。

いま、その少年はエロ本を見ていたところだ。
おっさん
ロイ少年だ。
いやもうほんとにエ

「少年におっさんとつけるなポケ作者……！ああん……？
 テメエ、俺になぶりがろされたいか……！！！」

逆に俺がやってやるよ。ぐひひひ……。

「???「つひいいいい!!!ごめんなさい!すみません!許して!申し訳ありません!!!真に申し訳ございませんでしたああああああああああ!!!」」

ツフ、分かればいい。ということ、この少年の名前を紹介してお
 っさん
 っさん
 こう。この少年の名前は・・・「エロ・エロ・エロ」だ。

「……つてやめろおおおおおおおおおおお……！！！！！！」

「……！……！……！俺の名前はミゲールだ！……！……！ミゲール・レブリア
だ！……！……！」

ふん。
だから？

ミゲール「それはひでえよ！！！！俺はお前に作られたのに！！！！
・はぁ・・・何で俺はこんなボケな野郎に作られたのだろうか・・・

L

ああ！？んだと！！？てめえ、誰に向かつて口聞いてやがる！！ボケ！！！！！！

ミゲール「うわああああああああん！ごめんなさああああああああい！！！」

とまあ、こんな風に、
おっさん
少年ミゲールはすごしていた。

そんなある日、少年ミゲールはつていうか、いちいち少年つて打つ
 のめんどいから、もついいや。お前はこれからオッサゲーな。

オッサゲー「その名前はやめろおおおおおおおおおおお
お!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!っていうかもうその名前になっちゃって
るし!俺の許可なくやってるし!!!!!!!!!!」

そんなある日、オッサゲーはある夢を見た。その夢とは……

くオッサゲーの夢の中く

オッサゲー「何だよここ……。なんか、マツタケとかしいたけとかタケノコとか、まいたけとかなんか変な形の家があるな。つー

強引な超有名入学校長・・・の巻き（後書き）

次回もコピー！

しょうがないからオツサゲーをやめてミゲールにしてあげた&あの有名人が教頭

今回はオツサゲーからミゲールに変わっています。

そして、今回は教頭先生が登場です!!

しょうがないからオッサゲーをやめてミゲールにしてあげた&あの有名人が教師

宮本「まずはこの学校のことについて説明しよう。この学校は生徒一人一人のダメな点が治るまでこの学校にこななければならないのだ。そして、生徒達は皆、あの大きな寮に泊まっている。朝昼晩ごはんは、あの忍○乱○郎の給食のおばちゃん達を作る。とっても料理はおいしいけど、大きな寮だけに量が多いし、残したら”お残しは許しまへんで！！”っていうから覚悟を決めてね」

ミゲール「ってちよつと待て！今、”生徒一人一人のダメな点が治るまでこの学校にこななければならない”っていったよね！？それで俺が勝手にこの学校に入学したということは、俺にはダメな点があるってことだよな！！？それどういうこと！！？俺にダメな点はないぞ！！全て完璧だ！！！」

ミゲールはそういいながら宮本武蔵学校長に訴えた。あ、ちなみに、何故オッサゲーからミゲールに変わっているのかというと・・・こいつがうるさいから。

ミゲール「うるさいとはなんだ！！！」

ほらね。うるさいでしょ。

ミゲール「お前のほうがうるさいわボケ作者！！！」

ああん？テメエ処刑な！！絶対処刑な！！

ミゲール「ごめんなさい！！！」

話を戻そう。

宮本は、そういうと、どこから持ってきたのか分からないが、エロ本をミゲールに投げつけた。すると、Mr. KOMはすぐさまエロモードを発動し、そのエロ本をパラパラとめくり、よだれがたれていた。

「ミゲール、なにそれ……えっと……えっと……」

ミゲール「ええええええええええ！！！！！？そんな勉強は宿敵でいつもやられるから嫌だ」

ミゲール「へい……。」

12

宮本「そして、入学したら、それぞれ、ダメな点のグループに分かれて、一緒にダメな点をなくすのだ。」

それから、数分後。不良のいるグループのところや、エロいやつらがいるグループなど、数々の部屋を見ていった。すると、ミゲールが校庭で何かを見つけた。

宮本「あれは・・・けんかだ!!!」

宮本武蔵学校長がそういうと、宮本武蔵学校長はミゲールの服を剣で刺したまま校庭へと走っていった。

〈校庭〉

校庭では、小さい角が2こ突いている赤い帽子をかぶっていて白いワイシャツに、短パンをはいている少年と、オレンジと黒でできた服を着ていて、おでこには、額宛をつけている青年が取っ組み合いをしていた。

少年「お前がぶつかってきたんだろ！謝れ！」

青年「何を言ってるんだってばよ!!!そっちからぶつかってきたんだってばよ!!!そっちが謝れ！」

少年「何だと〜!!!」

少年と青年が取っ組み合いをしていると、黄色い髪の毛で、ワイシャツにミニスカートをはいて、キャンディのようなものをなめている少女と、緑色のセーターに黒の長ズボンをはいたためがねをかけた

イケメンが少年を止めに行き、ピンク色の髪の人に赤色の服を来た少女と、緑色の服を着ていて、ゲジマユの少年が青年をとめにいった。

ミニスカートの少女「ボッスン！何してんねん！！！こんなところで喧嘩はやめんかい！！」

イケメン「そうだぞボツスン！口げんかなら俺が代わってやるぞ！ボソボソボソボソ・・・」

ミニスカートの少女「何スイッチまで喧嘩買つとんねん!! しばらくぞゴラァ!!」

ピンクの髪の毛「なにやってんのよナルト！！あんた喧嘩してたら綱手様にいうわよ！！！！」

ゲジマユ「そうです！ナルト君！！こう言うときは相手ののはらわたを抉り出してやるんです！！」

ピンクの髪の毛「って、ちよつとリーさんまで」

宮本「ちよつとまでえええええええええええええええええい！！！！！！俺の学校で喧嘩やつてるやつ！！！！俺の剣でぶった切つてやるぜ！！！」

[illegible]

喧嘩を止めていると、その上空から、宮本武蔵学校長とミゲールがやってきた。更に、職員室から、赤いよろいを来た武将がやって

きた。

「??? おかし^{おかしい} お菓子」ランダムー学校教頭、真田幸村！参る！
「！！！！！！はああああああああああああ！！！！！！」

[illegible]

ミゲール「だから喜ぶなああああああああああああああ！
！！！！！！！！」

それから、宮本武蔵学校長はナルトという青年を剣で一突きし、真田幸村教頭先生はボッスンという少年を槍で一突きした。それから、ナルトとボッスは緊急手術をしましたとき。めでたしめでたし。

ミゲール「こええよ……」

しょうがないからオッサゲーをやめてミゲールにしてあげた&あの有名人が教頭

次回もコピー！

ミゲールがまず初めに行くクラス（グループ）紹介。の巻き（前書き）

はーい！今回はちよつと短いネ！

（多分ネ）

あ、そういえば、ポケモンにタブンネっていうポケモンいたよね。

ミゲール「今ここでダジャレか！」

え？ダジャレ？何をバカなことを・・・。

ミゲール「むむ・・・。」

ブーイングは厳禁！！！！

そして、そんなミゲールを、影から見る何人かの影がいた。

ミゲールがまず初めに行くクラス（グループ）紹介。の巻き（後書き）

はーい！次回は、やっとこさあいつが！！そして、あいつも、あいつもあいつも！！あの人らも！！

おたのしみに！！！！

次回もコピー！

ミゲールとぶうたんの物語　の巻き（前書き）

はーい！！短いですが！！あいつがでてあいつとかあいつとかあいつとかであの人も出たら終りなんだお！！

じゃあ、行くじょ！！

気持ち悪い表現あり

の巻

ミゲール「う……もう帰りたい!!」

ミゲールは未だにもないていた。

11月5日、午後1時、「女嫌い嫌い教室」に入ってから4日後。

オカマA「ダ・メ・よ〜ん。逃げちゃいよ〜ん!! もう! そんなことするんだったら、あんなことまでしちゃおう?」

ミゲール「きめえよ!!!こっちくんなボケ!!!!」

オカマB「それでも喰らいなさ〜い!!!!!! 必殺”私”あなたのことが〜だ〜い〜いすきなんだによ! メロメロボンバーアタックウルトラスペシャルエナジーストリーム”よ!!!!!!”」

ミゲール「ウェロウェロウェロウェロウェロオオオオ・・・
オエッ！！！」

ミゲールは、オカマBの必殺ファンクション”私ゝあなたのことが
くだーいーいすきなんだによ！メロメロボンバーアタックウルト
ラスペシャルエナジーストリーム”を喰らって気絶してしまった。
ちなみに、”私ゝあなたのことがくだーいーいすきなんだによ！
メロメロボンバーアタックウルトラスペシャルエナジーストリーム
”とは、オカマフレームのL E X「小さな変態の体験」の専用の必
殺ファンクションで、自分の周りを気持ち悪いハートで囲み、相手
に突進するという、超強い必殺ファンクションだ。
これを喰らったL B Xは、一撃で倒されるという。

オカマB「もゝまだまだねゝミイちゃん！」

ミゲール「ミイちゃん言うな！俺はミゲールだ！！」

ミゲールはミイちゃんと呼ばれるとすぐに起き上がった。そんな日が何度も続いた。そして、それから1週間後の夜……。

寮に一つの影が見えた。

???「つく……こんな変な学校……すぐに抜け出してやる！
！誰が一生こんなところにいるかよ！……よつと！……あんな気持ち悪いオカマ教室、もう行きたくもねえ！」

その影は、そんなことをぶつぶつ言っていた。すると……

警備兵「誰だ！！？お前は……。よし。学校長！学校長！宮本武蔵
学校長！脱走している者一名発見！その名も……」

——ミゲールです。」

ミゲール「ギクツ！見つかっちまったか！！逃げろ！！」

ミゲールは必死でその学校から逃げようとしていた。だが、次々と学校のものしたから槍の門が現れ、逃げ場を失ってしまった。すると、何者かが、走ってくる音が聞こえた。ミゲールはその音を聞くと、とっさに物陰に隠れた。その人物は、一人の少年だった。

少年「まったく！誰やねん見つかったアホは！これで俺の計画が台無

少年「うわー！！！！おこられたー！！！！！！！！」

ミゲール「おこるわボケ！！！！つーか吃驚したのはこっちじゃい！！！！！！」

少年「俺ぶうたん。お前は？」

ミゲール「話しかえるなあああああああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！！！！！！！」

こうして、二人は出会ったのであった。

そして、あるところでは・・・。

????D「シルム・・・あそこ見ろよ。なんかつまそうなやつらが
いるぜ・・・(黒)」

????S「ドルク、あれは人だから食べ物じゃ・・・(汗)」

????R「なんか変わったやつらだな・・・(汗)」

????F「まあいいじゃない。ここは、先生である俺達が止めないと。」

????R「そうだな。それで、エナジーバスター叩きこんで、エナ
ジーシャウトで懲らしめてやろう。」

????S「いやいやいや！ダメでしょ！！！！オイラたちがあの人た
ちを説得させるんだって！」

「???F「まあ、いいから。よくきいてね。ラッシュ、ドルク、シルム。」

ラッシュ（？）「ああ。」

シルム（？）「わかった！」

ドルク（？）「OKだぜ!!!!!!」

なにやら、緑色の大きい亀のような不思議な生き物と頭などから炎を出している不思議な生き物、オレンジ色でお腹はクリーム色の尻尾に炎がついている不思議な生き物2匹がなにやら話し込んでいた。そのうちの傷がたくさんついている竜のほうに、ラッシュという名前前で、亀がドルク、猿がシルムだ。

「???F「・・・ということだ。分かったね？」

ドルク「ああ！まあ、任せろフォック！」

ラッシュ「だな。」

シルム「オイラ達に任せてよフォックさん。」

フォック（？）「ああ、じゃあ頼む！」

こうして、4匹は分かれた。

そしてそして一方では・・・

「???Y「よし！じゃあ・・・脱走をしようとしていた38歳の

少年とチビ料理人を探さそう！」

「でも、どこにいるんだニヤ？」

「多分・・・門の前だともう。」

「それじゃあ行きましょ！」

「そうね。それじゃあ行きましょ。早めに行かないと。一応学校長が槍の門を展開したようだけど・・・早く捕まえなきゃ、この学校内に隠れちゃうもんね。」

「そうね。それじゃあ慎重に行きましょ。ハク、忍しのぶ、ルナ、クロ。」

「わかったわ。ユニカ。」

「ええ。」

「うん！」

「分かったニヤ！！」

ここでは、美少女達4人と可愛い蝙蝠猫（こいつもちねこ）（猫の姿だが、背中に蝙蝠のはねのようなものがついてる動物）がいて、こちらミゲールたちのことを話していた。

そして、ある部屋では・・・

「フッフッフ・・・ミゲールとぶうたん・・・なかなか面白

い者達だ。」

その部屋には、青い傘を持った青年がどこかの窓からミゲールとぶつたんを観察していた。

ミゲールとぶつたんの物語 の巻き（後書き）

次回から自分で書きます。

あゝめん・・・ああいやなんでもないですゝ（汗）

レブリアとぷうたんの New room

宮本「うーい、じゃあ今日からお前達は特別室で過ごしてもらおうぞ」

宮本は眠たそうにあくびをしてめんどくさそうにレブリアとぷうたんにそういった。レブリアとぷうたんはあくびをしながら「へ？今なんと？」とか「どないこっちゃねん！」などと聞き返した。だが、宮本はそれをしかとし、また眠たそうにあくびをしながらめんどくさそうに言った。

宮本「お前達には今日から特別教師がつくようになった。先生、入ってきてください」

???「はい」

宮本がドアのほうを向いて呼ぶと、そこから黒い髪で赤い目をしていて、青を強調した服装で、青い帽子をかぶっていて青い傘を手に持っている青年が入ってきた。

宮本「彼の名前は」河上^{ケイ} k”先生だ。お前達のその腐ったところを直すべく、張る張るキノコシティからおいでなさった。くれぐれも失礼のないようにな」

レブリア「先生！バナナはおやつに入りますか！？」

宮本「何を聞いているのだね？」

ぷうたん「先生！かわええ女の子はおやつに入りますか！？」

宮本「殺されたいの？（黒）」

宮本からすごい殺気が見られた。これにレブリアとぶうたんは退いたがk先生は動じなかった。

k「はいはい、おふざけはやめてやめて。バナナもおやつに入るよ。でも女の子はさすがにな（汗）」

k先生は、宮本とは違い、優しく、笑顔で2人の質問に答えた。

レブリア「せんせーい！！！！（泣）」

ふうたん「俺……バスケやりたい！」

k「うんうん。あきらめたら、そこで試合終了だからね」

レブリア・ぷうたん「せんせ~~~~~い!!!!!!」

宮本「おいおいマジかよ……（汗）」

宮本は、この急展開に少々退いていた

宮本「まあ、そういうことで先生、よろしくお願いします」

k 「ええ、任せておいください」

宮本「では」

宮本はそういつてレブリアたちの部屋から出た。

ちなみに、レブリアたちの部屋はたたみ式で、何とか4人入れるか入れないかのスペースだ。そして、折りたたみ式の机が一つと座布団が何枚かおいてあった。

k「さて、まずは何をしようか・・・あ、それとレブリア君、君会いたいという子がいるんだが、いいかい？」

kは何かを思い出したようで、レブリアに尋ねた。

レブリアが「え？」と思いながらドアのほうを見ると、そこには小さな木刀を持った一人の少年がいた。

レプリアとぶったんの New room（後書き）

次回！あの少年到来！そして、ちょっと性格が変わりました！

レフリアの・・・(前書き)

かなり短いお！

レブリアの・・・

レブリア「お前は・・・」

???「先生!!」

レブリア「うおわっ!?!?ちょ、ちょま・・・テンロウ!」

テンロウといわれる少年は、いきなり木刀でレブリアの頭を殴りかった。だがレブリアはギリギリでガードして、腹に一発くれてやった。

テンロウ「ぐぶっ!・・・先生、俺もここで住むことにしたよ。さつき、ミヤウモドムサアジガクコウチヨウ?におねだりしてきた!でも、中々聞いてくれなかったから・・・あれ、使っちゃった!」

レブリア「にやによおおおおお!!!!!!?殺人流剣術を使ったのか!?!?あれはもう二度と使うなといったたる!!!」

テンロウ「うるせえよ・・・エロ親父の分際で・・・えへっ」

テンロウは、ボソツとレブリアの悪口的なことを言ったような気がしたが、満面の笑顔でレブリアを見上げた。

レブリア「ギッ・・・は、ははは」

レブリアは冷汗をかきながら頭をかく。

テンロウ「まあ、そういうことで!えっと?関西弁のおっさん)

ぷうたん）と優しくて面白いお兄さん（kさん）、どうか、よろしくお願いします！」

ぷうたん「今、おっさん言っただよな・・・」

k「はい、よろしくね」

ぷうたんは怒りマークを頭に何個もつけながらテンロウをにらみつけ、kは笑顔で返事をした。どうやら、これを見る限り、kとテンロウはもう仲良しになったようだった。

ぷうたん「次おっさん言ったら料理したるわ・・・」

ぷうたんは影で恐ろしいオーラを発揮しながらテンロウをにらみつけ、レブリアは大量の冷汗をかきながら宮本の様子を見に行った。
だが。

テンロウに首元を木刀で叩き込まれて、気絶し、ずるずると部屋へと引き戻されてしまった。

こうして、レブリアとぷうたんたちの新しい生活が始まるのであった。

レプリアの・・・（後書き）

あゝ・・・なんかテンロウの性格が・・・マジ変わってる・・・（汗）

さあ、次回は新章に突入！かも・・・。わかんない。

まあ、お楽しみに！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6594y/>

レブリアと、ぷうたんの物語 ～おかし{お菓子(おかしい)}ランダムー学校

2011年11月25日22時48分発行